

令和 4 年度

# 運営に関する計画

大阪市立天下茶屋中学校

令和 4 年 4 月

大阪市立天下茶屋中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「いじめのない学校づくり」を推進している。いじめの解消率については、毎年100%を維持する。

・校内外における暴力行為発生件数は年々減少傾向にある。今後も、校内外における暴力行為発生件数の減少に努める。

・「学校の規則を守るようにしている」生徒は増加傾向にあるが、学校内外での問題行動の発生件数の減少に努める。

・不登校生徒数のさらなる減少に努める。

・道徳教育を推進し、人の心の痛みを理解し、道徳的行動のとれる生徒の育成に努める。

・「全国学力・学習状況調査」において、各調査項目とも平均正答率は全国平均を下回っているが、差は少しずつ縮まってきている。また、平均無解答率において、国語、数学において全国よりも低くなっている。

・「中学校チャレンジテスト」において、教科の平均点数が大阪府平均を下回っているが、点数の差は縮まってきている。また、無回答率は府平均より若干高い。

・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点が男女とも全国平均を上回った。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度末の校内調査で、学校で認知したいじめについて解消した割合を100%にする。
- ・毎年度末の校内調査において、暴力行為を行う加害生徒数を、全校生徒の2%以下に保つ。
- ・毎年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上に保つ。
- ・令和7年度末の校内調査において、不登校生徒数を、全校生徒の10%以下にする。
- ・令和7年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目において、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・全国学力・学習状況調査における平均正答率を、対全国比で国語については0.9以上、数学Bについては0.85以上になるようにする。また、無回答率を平成29年度より減少させる。
- ・中学校チャレンジテストにおける全体平均点を、前年度より3点向上させる。(R347.3点) また、無回答率を減少させる。
- ・全国体力・運動能力・運動習慣調査における各学年の合計得点を、R3年度より3.2%向上させる。(R346.8%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度末の構内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ・ゆとりの日については、週1回以上設定する。  
学校閉庁日については、夏季休業期間、冬季休業期間中は3日以上設定する。
- ・図書館を放課後、朝の時間に週3日以上開放し学びを支える教育環境の充実につなげる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を75%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

- ・ 「健やかで豊かな心を育む教育」の充実に向けて、「人権」・「平和」・「国際理解」・「命の大切さ」について考える取組や、「人や自然と触れ合う」・「芸術に触れる」行事を推進する。
- ・ 令和4年度末の校内調査において、「学校生活が楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- ・ 令和4年度末の校内調査において、「しっかりあいさつをしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。
- ・ 令和4年度末の校内調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項で「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を20%以上にする。
- ・ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を50%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすること好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。

#### 学校園の年度目標

- ・ 学校図書館を授業で活用するとともに、毎日放課後開館し、生徒の自主的な利用をととして学力向上に結びつける。
- ・ 令和4年度末の校内調査における「学校の授業は分かりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を65%以上にする。
- ・ 令和4年度末の校内調査における「宿題をきちんと提出した」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- ・ 部活動の活性化を図り、入部率を60%以上にする。
- ・ 生徒一人ひとりが自己の健康維持について認識を高めるため、保健指導や食育を推進する。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・ 年度末の校内調査における「日々の授業等、学校生活の中で学習者用端末やその他ICT機器を活用している。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。
- ・ ゆとりの日については、週1回以上設定する。  
学校閉庁日については、夏季休業中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

#### 学校園の年度目標

- ・ 図書館を放課後、朝の時間に週3日以上開放し、学びを支える教育環境の充実につなげる。
- ・ 年度末の校内調査の「時間を見つけて読書をしている」の項目について、肯定的な回答を40%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

それぞれの中期目標において、

「安全・安心の教育の推進」では「学校のルールを守るようにしている」で90%以上の肯定的な回答を保つことができた。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では「宿題をきちんと提出している」で70%以上の肯定的な回答を保つことができた。

ただし、「学びを支える教育環境の充実」では「時間を見つけて読書している。」では、肯定的な回答が20%に届かなかった。

それぞれの中期目標に対して、新型コロナ感染拡大の影響が落ち着きつつある中で少しずつ従来の教育活動に戻りつつあるが、目標達成できていない状況である。そのかで教職員が力を合わせて教育活動を進めることができた。

(様式 2)

## 大阪市立天下茶屋中学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 75%以上にする。</li> <li>・ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</li> <li>・ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</li> </ul> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「健やかで豊かな心を育む教育」の充実に向けて、「人権」・「平和」・「国際理解」・「命の大切さ」について考える取組や、「人や自然と触れ合う」、「芸術に触れる」行事を推進する。</li> <li>・ 令和 4 年度末の校内調査において、「学校生活が楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 70%以上にする。</li> <li>・ 令和 4 年度末の校内調査において、「しっかりあいさつをしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 85%以上にする。</li> <li>・ 令和 4 年度末の校内調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目で、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 85%以上にする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>人権を尊重する教育に関わる講話や体験学習を実施する。</p>	B
<p>指標 人権教育(いじめを含む)・平和教育・性教育について講師を招き、それぞれ 1 回以上講話や体験学習を実施する。</p>	
<p>取組内容②施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>人や自然と触れ合ったり、伝統文化・芸術を鑑賞する機会を持つ。</p>	B
<p>指標 芸術鑑賞を 1 回実施する。また、フィールドワーク、園芸や緑化活動を通じて人や自然と触れ合う。</p>	
<p>取組内容③【施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>生徒会が中心となる行事をとおして、生徒同士が互いに支え合う集団を育成する。】</p>	B
<p>指標 小学校児童との交流会(年 1 回)やボランティア清掃(学期に 1 回)などを</p>	

生徒会が企画し、生徒同士が協働することにより、互いに支え合う集団を育成するとともに、生徒一人ひとりの道徳性や社会性を育成する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>日々の教育活動を各担当教員が高い人権感覚を持って推進している。全校生徒に 8 月に平和学習、12 月に和太鼓の芸術鑑賞会を実施した。3 年生で助産師を招き性教育の実施。2 年生は職場体験を実施。1 年生は 2 年生がお世話になった事業所の職業インタビュー、大阪城でフィールドワークを行った。生徒会活動では、赤い羽根募金運動、児童見学交流会を実施した。様々な活動を通して「学校生活は楽しい」という肯定的な回答を 70%以上を保つことができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>次年度は、コロナ感染拡大が終息の方向へさらに進むことを期待して、従来の教育活動を実施していきたい。</p>	

(様式 2)

## 大阪市立天下茶屋中学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 20%以上にする。</li> <li>・ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 50%以上にする。</li> <li>・ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすること好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。</li> </ul> </li> </ul> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校図書館を授業で活用するとともに、毎日放課後開館し、生徒の自主的な利用をとおして学力向上に結びつける。</li> <li>・ 令和 4 年度末の校内調査における「学校の授業は分かりやすい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 65%以上にする。</li> <li>・ 令和 4 年度末の校内調査における「宿題をきちんと提出した」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。</li> <li>・ 部活動の活性化を図り、入部率を 60%以上にする。</li> <li>・ 生徒一人ひとりが自己の健康維持について認識を高めるため、保健指導や食育を推進する。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>家庭学習課題を計画的に出し、やりきらせることで学力を向上させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和 3 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【施策 5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>研究授業を含む校内研修を充実させ、教員の指導、学校力を高め、生徒の学力向上に結びつける。</p>	B

指標 全教員が1回以上研究授業を実施する。校内研修会を年に8回以上実施する。	
取組内容③【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 保健指導、食育を一層推進し、生涯に渡り健康であるための意識を育てる。 指標 「ほけんだより」「食育つうしん」を毎月発行し、学級活動などで活用する。 生徒が中心となり学校保健委員会を実施する。今年度は、小中合同の開催を目指す。	B
取組内容④【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 新体力テストを全学年で実施し、体力の向上を図る。運動部活動への入部率を高め、体力の向上を図る。 指標 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、全種目とも全国平均を目指す。 運動部活動入部率を令和3年度よりも向上させる。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
研究授業実施の月を、原則1年生は11月、2年生は12月、3年生は1月と学年ごとに設定した。「部活動に積極的に参加している」に対して、肯定的な回答が70%に達しなかった。また、朝の登校時間にも図書館を開館し、読書をする環境を整備した。	
次年度への改善点	
今年度の取り組みを継続しつつ基礎学力の定着に努める。読書活動を推進していく。	



(様式2)

## 大阪市立天下茶屋中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における「日々の授業等、学校生活の中で学習者用端末やその他ICT機器を活用している。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。</li> </ul> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゆとりの日については、週1回以上設定する。</li> </ul> <p>学校閉庁日については、夏季休業中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。</p> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館を放課後、朝の時間に週3日以上開放し、学びを支える教育環境の充実につなげる。</li> <li>年度末の校内調査の「時間を見つけて読書をしている」の項目について、肯定的な回答を40%以上にする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者用端末を活用した個人学習を月1回以上実施する。</li> <li>本校の年間計画に沿って、ICT機器を活用した学習を月1回以上実施する。</li> <li>学校施設設備・学習環境・学習ツール等を整備し、教員・生徒がICT機器を活用する力を育成する。</li> </ul> <p>指標</p> <p>ICT機器の活用研修を年1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スクールサポートスタッフを有効に活用できるよう業務依頼を計画的に行い、職員の負担を減らす。</li> <li>会議案件を伝達事項と協議事項に分けて、会議を効率よく進行し時間の短縮化を図る。</li> </ul> <p>指標</p> <p>職員会議の時間を年度当初より年度末の方が短縮できるようにする。</p>	A

<p>取組内容③【８ 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の活性化を図り、読書活動を推進する。読書カードを活用して、文章を読む習慣の定着を図る。</li> </ul>	B
<p>指標</p> <p>生徒アンケートにおいて、「読書は好きだ」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を令和３年度より１％増加させる。</p>	
<p>取組内容④【９ 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域の方と連携した学習活動や、ＰＴＡ、学校協議会、非行防止連絡協議会、人権教育ネットワーク等の活動を推進する。</li> </ul>	B
<p>指標</p> <p>令和４年度末の保護者アンケートの「学校は教育内容を家庭に発信する機会をよく設けている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和３年度より１ポイント増加させる。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>日々の教育活動は生徒にとって多くの場面で充実している。体力面においては体育科の授業の中で工夫改善し生徒の体力の向上に向けた授業実践がなされている。また、部活動においても活発に活動しており生徒の体力の向上に寄与している。各教科においても電子黒板等の ICT 機器を活用した授業実践が見られる。今後は活発な読書活動が望まれる。</p> <p>３学期から読み聞かせ運動の一環として給食の時間を活用して全校一斉の「ランチタイム放送」を月に１回実施した。</p> <p>教職員の働き方改革の一環として１０月より月一回ゆとりの日を導入した。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>図書館を積極的活用できる機会を増やすことで、読書活動を推進していく。</p> <p>働き方改革を推進するために、「ゆとりの日」設定を増やししながら、会議時間を短縮するなどの取り組みを行っていく。</p>	

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (1) 国語

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】導入教材を工夫したり、話し合いや作文のテーマを工夫したりして、生徒の興味・関心を引き出す。	B	B
② 【個に応じた指導】個々の学力に合わせて添削やコメントを書き、やる気を引き出す。習熟度別にプリントを用意するなど、きめ細かな対応を行う。	B	
③ 【言語力の育成】日常的に読書を取り入れ、多様な表現や様々な考え方に会わせる。自分の意見を述べたり、書いたりする機会を大事にする。言葉を推敲する経験を増やす。	B	

### 結果と分析

- ① 導入部分に調べ学習を行うことで、学ぶ内容を明確にすることができた。また、俳句や短歌など、自分で創意工夫して作った作品を披露し、批評してもらう機会も設けることができた。作文の取り組みも、「なりきり作文」や「１００秒チャレンジ（１００秒間でどれだけ文章が書けるか）」など、条件に則って作文を書くことに取り組んでいる。また、ビブリオバトルに取り組み、プレゼンテーション能力の向上を図った。
- ② 習熟度別プリントはできていないが、プリントができた生徒から順にわからない生徒のサポートに回す、もしくは発展プリントを解かせるなどして、学力の高い生徒が手持ち無沙汰にならないように工夫している。どの学年でも提出物に丁寧にコメントを書き、学習を励ましたり改善を促したりと個々にあわせたサポートができた。
- ③ 文章を読むことが苦手な生徒が多い。自分の考えを書く機会を、作文や単元の中で設けているが、まだ弱い。また、自分の意見を発表する力が非常に弱いと感じるので、言語能力はさらに高めていく必要がある。

### 次年度への改善点

様々な人の経験や知識を吸収したり、想像力を広げたり、思考力や言語力を高めるために、もっと読書を身近なものにしていきたい。

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (2) 社会

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【興味関心の向上】授業に新聞記事、時事問題等を活用して社会的事象の紹介を取り入れ、学習内容と関連付けを図る。	B	B	
② 【個に応じた指導】 資料集や、I C T機器を使用した視聴覚教材の活用を取り入れる。	B		
③ 【言語力の育成】各分野における「調べ学習」を取り入れ、「課題意識をもつ」「調べる」「読み取る」「考える」「まとめる」「発表する」といった言語活動に取り組む。	B		
④ 【自主学習習慣の定着】家庭での反復学習ができるような教材の作成と、定期テストとのリンクを図り、基礎学力の向上を目指す。	B		
⑤ 【小テストの活用】 随時、小テストを行い学習内容の確認、定着をはかる。	B		
結果と分析			
①授業や課題で時事問題に触れる機会を作ることができている。			
②資料集やスライドを授業の中で活用し、学習内容の理解を促すことができている。			
③授業や長期休暇の課題等で、資料や時事問題を調べたり、まとめたりする場面を設けることができている。また、授業の中で話し合う場面や発表する場面を設けることができている。			
④東書ライブラリやプリント等を活用して、反復練習を行っている。			
⑤单元ごとに小テストやまとめの学習を行うことができている。			
次年度への改善点			
1人1台端末の活用を進めたい。			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (3) 数学

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】教材を工夫するとともに、定期的に小テストを実施するなどして、学習意欲の向上を図る。学習に関するアンケートで「分かる」を、60%以上を目指す。	A	B
② 【個に応じた指導】生徒が個々に独力で取り組めるよう教材・課題作りに努める。また、課題については細かく点検し、その結果を生徒にフィードバックする。	B	
③ 【言語力の育成】数学を活用して、「授業内発表」など、互いに自分の考えを伝え合う活動を意図的に設定する。	B	
④ 【学び直しの機会】既に指導した内容を意図的に取り上げ、復習をすることで理解を深めていく。	B	

### 結果と分析

- ① 単元によっては、積極的に ICT を取り入れた授業をし、シミュレーションを見せることで問題をイメージさせ、少しでも興味関心をもってもらえるような授業展開を心掛けた。  
授業アンケートの結果1年生 89%、2年生 85%、3年生 96.4%の生徒が「授業が分かるようになっていきますか」に対して肯定的な回答をしているため達成できていると考えている。
- ② 本年はスクールアドバイザーの先生に来ていただき、授業の助言等していただき教材や課題の出し方も工夫することができた。単元ごとにリフレクションシートを用いて自己評価をさせ、生徒たちの理解しているところと、まだ理解していないところを把握して、アドバイスの記入などに努めている。
- ③ コロナ禍のため班活動を控えていたが、ペアワークや、話し合い活動を行っている。発問の形式を工夫し、生徒が自分の考えを伝える機会を設けるよう努力している。
- ④ 授業の最初に復習の小プリントを毎回行うことで、学びなおしを行うことができています。毎回前授業の確認から行うことで、授業に理解を持って取り組めるようにしています。

### 次年度への改善点

今年度は、習熟度別授業を実施できる機会を増やすことが目標である。  
過去に実施していた、「数学力アップ」なども視野に入れて、学校全体で数学の力をつけていきたい。

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (4) 理科

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準      A：目標を上回って達成した                      B：目標どおりに達成した  
                    C：取り組んだが、目標を達成できなかった      D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】教科内容を身近な事象と関連づけて導入する。また、実験を年間20回以上行い、興味・関心を高めて理解を深める。	A	B
② 【個に応じた指導】習熟に応じた練習問題の作成や、放課後などを利用して補習を行う。	B	
③ 【言語力の育成】 実験や観察のレポート作成を通じて、結果や考察の表現方法を身に付けさせる。	B	

### 結果と分析

- ①実験は、生徒実験・演示実験併せて、1年生、2年生、3年生すべての学年で20回以上行うことができている。
- ②習熟に応じた練習問題は実施できていないが、補助教材は適宜作成し、授業で活用できている。放課後などを利用した補習は、学年によって実施頻度にばらつきがあるが、実施できている。
- ③実験・観察のレポートは、各実験時に全員に作成させている。結果のまとめ方や、考察のし方も少しずつに身についている。

### 次年度への改善点

実験・観察に関しては、概ね計画通りに実施できている。引き続き取り組みたい。補助教材の利用方法や、放課後の補習については、工夫を検討していく必要がある。

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (5) 音楽

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準      A：目標を上回って達成した                      B：目標どおりに達成した  
                    C：取り組んだが、目標を達成できなかった      D：ほとんど取り組めず、目標も達

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
① 【興味関心の向上】教師の模範演奏、映像教材などを使って、興味・関心を持って意欲的に取り組めるよう工夫する。	B	B
② 【個に応じた指導】一人ひとりの演奏を聴く時間を作り、それぞれの声域に合わせたきめ細かな指導に努める。	B	
③ 【言語力の育成】歌詞が表す情景や心情を感じ取ったり、リズム・旋律・形式・構成などの音楽を構成させている要素に注目しながら、言語を生かした表現ができるような指導に努める。	B	
結果と分析		
<p>① 鑑賞教材だけでなく、歌唱曲の関連画像や参考曲などを聞いたり見たりすることで興味をもたせることで、関心を持たせる取り組んだ。</p> <p>② 机間巡視をしながら、一人ひとりの個に応じた指導を心掛けたが、きめ細やかな指導には至っていない。</p> <p>③ 歌詞の意味や、作詞者・作曲者の意図やその効果など構成を理解することで、より表現が工夫できるようつとめた。</p>		
次年度への改善点		
<p>・アルトリコーダーの使用を感染状況と方針を見ながら進めていく。</p>		

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (6) 美術

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】参考作品や ICT 機器を効果的に使い、完成を具体的にイメージさせることで、制作活動に意欲を持たせる。	B	B
② 【個に応じた指導】個性を生かせる題材を選び、各自で主題を決定し、個々が満足いく作品に仕上がるように指導をする。また、個人差を考慮した指導に努める。	B	
③ 【言語力の育成】スケッチやワークシートを利用し、言葉と作品の関係を関連付ける題材を取り入れる。言語での表現が苦手な生徒も、相互鑑賞などを通して他者がどのような言葉で表現をしているのかを知り、参考にすることができる場を持ちたい。	B	
④ 【表現力の育成】時間をかけ完成度の高い作品を目指すことで、表現の基礎的、基本的な能力を身に着けさせる。また、鑑賞の活動を通して、様々な表現方法があることに気づかせ、自らの作品制作に活かすことができるように指導を行いたい。	B	

### 結果と分析

- ①授業では作品を提示したり、制作の手順を動画で見せたりするなど電子黒板を積極的に活用できている。
- ②1・2学期を通じて、1年生では漢字のデザイン、2年生では染色・ステンシル、3年では自画像を制作した。3学期は1年生は木彫作品、2年生は抽象表現、3年生は篆刻を制作している。
- ③1年生では自分が気になる作品について物語を考える単元、2年生では最後の晚餐を細部まで観察し、作者の意図や工夫を読み取る単元、3年生では自画像からどのような人物か内面を予測する単元に取り組んだ。例を挙げながら文章を書くのが苦手な生徒でも書けるようにすることができた。
- ④文化発表会に向けて、全学年十分に時間を確保して作品制作に取り組むことができた。

### 次年度への改善点

- ・相互鑑賞により一層力を入れて取り組みたい。
- ・もっと校内に作品を掲示するなど、日ごろから生徒の目に作品が触れる環境を整えたい。



# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (7) 保健体育

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【興味関心の向上】	視聴覚教材などを使用し指導を工夫することで、運動の楽しさを味わい、技能習得を図る。小さな成功体験を多く経験させる	A	B
② 【個に応じた指導】	新体力テストを全学年行う。基礎体力・運動能力を高めるために、記録カードを作り、目標設定をした上で記録向上に取り組む。柔軟性、基礎体力の向上のため、毎回の授業でストレッチ、補強運動を行う。	A	
③ 【言語力の育成】	良い点・悪い点を伝え合い、言語活動に取り組みながら運動技能の上達を図る、「グループ学習」を取り入れる。	B	
④ 【集団生活】	リーダー育成のため体育委員を中心に授業を進める。ランニングや行進、ラジオ体操など集団行動を大切にし、授業だけでなく、集団の一員としての役割や責任を認識させる。	B	
結果と分析			
<p>①視聴覚教材を使って指導した。</p> <p>②新体力テストを全学年行った。 基礎体力向上のため、補強運動・ストレッチを毎回の授業で取り入れた。</p> <p>③单元ごとに「グループ学習」を取り入れて行った。</p> <p>④体育委員を中心に集団行動を行った。</p> <p>※お互いに協力して記録の向上や技術の習得に向けて取り組めた。</p>			
次年度への改善点			
<p>①～④を継続、改善し取り組んでいく。</p>			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (8) 技術家庭

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】日常生活に生かせる知識や技術の習得をめざし、授業内容を精選する。	A	B
② 【個に応じた指導】生徒一人ひとりの能力や長所を励まし、作品の合評などを取り入れ、生徒が互いに高めあえるよう援助する。	B	
③ 【言語力の育成】文章や口頭による発表を多く取り入れ、理解した事柄や感想をわかりやすく伝える能力を養う。	B	
④ 【情報モラルの定着】生徒の日常生活におけるコンピューターや携帯電話などの使い方を確認し、情報化社会の中で正しく判断し行動できるよう情報モラルの定着をはかる。	B	
結果と分析		
<p>①日常生活に生かせる知識・技能の習得を目標として、授業内容を設定し、年間通して行うことができた。次年度以降も引き続き、授業内容を精査していく。</p> <p>②文化発表会の展示作品を互いに評価し、生徒が互いに高めあえる取り組みはできた。また、作業の際には、生徒たちが互いに助け合いながら取り組むことができた。</p> <p>③制作時は毎時間活動内容の感想を書く時間を設けることができたが、調べ学習等の内容を発表する機会があまり作れなかったので評価していくような取り組みを次年度は増やしていく。</p> <p>④ICT 教育が進んでいく時代背景からも、より情報モラルについての項目は今後も重点的に伝えていく必要があると感じている。</p>		
次年度への改善点		
情報モラル教育の内容を精査し、わかりやすい事例とともに生徒に考えさせ、身近な危険性を理解させる授業を展開していく。		

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (9) 英語

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準      A：目標を上回って達成した                      B：目標どおりに達成した  
                    C：取り組んだが、目標を達成できなかった      D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【興味関心の向上】 I C T機器の活用など、教材を工夫して作成する。日常生活の身近な場面と関連づけて、興味関心を引き出す。	B	B	
② 【個に応じた指導】 T Tまたは習熟度別授業を行い、よりきめ細やかな指導を行い、基礎基本の定着をはかる。基礎学力の定着をはかるため、基本的な内容の教材の作成、小テストなどの実施をする。	B		
③ 【言語力の育成】 C－N E Tとの連携で、コミュニケーション能力を高める4技能5領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）が身につくようにする。	B		
結果と分析			
<p>① 視覚的にも理解しやすいようにデジタル教材を積極的に使用している。また、教材に関しても興味がわくような題材や自分自身についての例文を作成させ、より身近な環境で授業展開した。</p> <p>② 定期テスト前に1年生では、少人数での授業を実施した。3学期には、3年生で音読テストをTTで実施した。また、パフォーマンステストとして暗唱テストや思い出を暗唱し発表するなど基礎学力の定着を図った。</p> <p>③ C-NETとのTTに関しては、1学期は3年生、2学期は2年生で実施し、1年生は3学期に実施している。また、話すこと「やり取り」・話すこと「発表」の取り組みの機会も設けた。</p>			
次年度への改善点			
<p>GTECの結果をみてもスピーキング能力が前年ともに低く、挨拶程度の簡単なコミュニケーションができるレベルから身近な単語や定型表現でコミュニケーションができるレベルなので、身近な表現で簡単なコミュニケーションができるように努めていきたい。そのためにも、基礎学力の定着を地道に行っていきたい。</p>			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (10) 道徳

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【生活習慣】教材や日々の生活点検、学年集会や朝の活動などを通して、望ましい生活習慣を身に付ける大切さを知り、調和のある生活を目指す。	B	B	
② 【自主・自律】日々の学校生活の中で、規律を重んじ、集団の中で他者を意識する態度を養う。また、道徳教育と特別活動や学校行事などに関連させて、物事に積極的に参加し、責任を持つ行動する態度を育てる。	B		
③ 【生命尊重】読み物教材、視聴覚教材などを使って、自然・生命の尊さを理解し、自他の生命を尊重する態度を育てる。	B		
④ 【正義・公正・公平】教材を通していじめの愚かさを知り、無関心にならず、不正な行動やいじめを許さない態度を育てる。	B		
結果と分析			
① 学年で頻度や形式は異なるが、全学年朝の集会を週に1回は行い、場合に応じで臨時集会などを行うなどして規範意識を向上させている。			
② 全学年、行事を生徒主体で行うことができるように学級代表や実行委員を中心に取り組んでいる。			
③ 3年修学旅行・2年一泊移住では、自然の雄大さに触れる機会を設けた。また、行事や読み物教材を通して生命を尊重することを意識させている。3年生は12月に産婦人科医の先生にお越しいただき、性教育の取り組みをすることができた。			
④ 学年ごとに生徒の実態に合わせて教材を選び、道徳の授業を進めている。			
次年度への改善点			
①～④を継続的に取り組んでいく。 年間35時間を確保できるように、行事などとの兼ね合いを考えていく必要がある。			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (11) 特別活動

目標 集団を意識させ、個々の責任感や充実感を高める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【生徒会】学校生活の充実に向け、行事の進行・運営に積極的に取り組み、規律ある集団づくりを推進する。	B	B	
② 【生徒委員会】各委員会で毎月の目標の作成や活動を明確にし、主体的に行動するよう働きかけ、クラスや学年に貢献させる。また、生徒議会での委員会の連携をつくり、生徒に浸透させる。	B		
③ 【学級経営】終学活や清掃・係活動など校内における活動で、各々が役割をもって取り組み、また事後反省をさせることで、社会の一員としての自覚と責任をもたせる。常に集団を意識させた生活を送る。	B		
④ 【学校行事】体育大会や文化発表会をはじめとする学校行事では、集団としての意識を持たせ、生徒主体で様々な取り組みを進めさせる。	B		
結果と分析			
①生徒会活動や生徒議会等で、個人の責任感を高め学級・学年・学校の代表であるということを日頃から意識させることができている。			
②各委員会で委員となった生徒に責任感や使命感をもたせ、取り組ませることができている。			
③日々の活動のなかで、自分の役割に責任を持たせ、集団のなかの一員として行動することができている。			
④体育大会等の行事を通じて、集団行動の意味や大切さを知ることができている。			
後期への改善点			
生徒会の生徒が、より主体的に活動に取り組めるよう働きかけていく。			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (12) 総合的な学習

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【すすんで取り組む活動づくり】自ら学び考える力、主体的に取り組む力を養い、問題を解決する資質や能力を育てる活動をすすめる。	B	B	
② 【個性を引き出す指導】体験学習を通してさまざまな考え方を学び、生徒一人ひとりが主体的創造的に取り組む態度を育てる。	B		
③ 【表現する力の育成】自ら体験し考えたことを文章や発表にまとめ、伝える能力を育てる。	B		
結果と分析			
① 体育大会・文化発表会でのそれぞれの行事の目標を立てさせて個人の取り組み、学級学年の取組等を実施することができた。			
② 昨年と同じく、行事を行うことが難しい中で、生徒自身が実施できていることに感謝し、主体的に一生懸命取り組むことができた。			
③ 行事ごとに感想文を書き、学年で共通理解を図ることができた。文化発表会では各学年、総合の時間を活用して、表現する力の育成に取り組むことができた。各学年大感動の文化発表会であった。 s			
次年度への改善点			
① ② ③を改善、継続し取り組んでいく。			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (13) 特別支援教育

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準      A：目標を上回って達成した                      B：目標どおりに達成した  
                    C：取り組んだが、目標を達成できなかった      D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【興味関心の向上】障がいを持った生徒が、興味を持って取り組める教材や学習活動を工夫し、自立活動や自立訓練を活発に行う。	B	B	
② 【個に応じた指導】社会的な自立を目標に、一人ひとりの持っている可能性を最大限に伸ばすための学習指導を進める。	B		
③ 【言語力の育成】「読み」「書き」「話す」の言語活動を中心に、基礎的な授業展開を中心に行い、自立活動や自立訓練を取り入れて自尊心の向上に努める。	B		
④ 【小中高連携】小学校や高等学校との連携を積極的に行い、特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーとの連携も十分に行う。	A		
結果と分析			
<p>① 教科指導においては、一人ひとりの学習形態に合わせた教材を選択しており、学習の定着・自主性を持った学習形態をとることができた。大阪市キャリア教育支援センター実施の職業訓練に2・3年が参加しキャリア教育を実施することができた。</p> <p>② 一人ひとりの持っている力を最大限伸ばしていけるように生徒一人ひとりへの関りを深めることができた。また、社会で生き抜くために必要な力、自己の判断力と責任感を培うための生活指導も行うことができた。</p> <p>③ 言語活動を、すべての授業で積極的に取り組むことができた。</p> <p>④ 次年度はスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係諸機関との連携を更に深めて生徒へのきめ細かなサポートにつなげていきたい。</p>			
次年度への改善点			
<p>・小中連携の意識を高め、新入学する生徒の情報交換を行い次年度へのサポートへとつなげていきたい。</p> <p>・「個別最適」「個に応じた指導」に基づき、生徒一人ひとりにあった学習を進め、基本的な学習の定着を図り、スモールステップで生徒一人ひとりを大切にする授業を次年度も実施していく。</p> <p>・生徒が安心して学習に取り組めるように、創意工夫し、研修・研究に努めていく。</p>			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (14) 人権教育

**目標** 命を大切にする心や多様な人と共生する態度を養い、人権意識の育成に努める。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【命を大切にする心を養う】平和学習や命の教育を通じて命の大切さを学び、互いを思いやる心を育成する。	B	B
② 【学びの仲間と共存する態度を養う】人々の多様性を知り、互いに助けあい、日々の活動に取り組む態度を育成する。	B	

### 結果と分析

- ①被爆体験等伝承者の講話や各学年での取り組みを通して、平和学習や命の教育に取り組むことができた。
- ②各教科の授業や日々の取り組みを通し、他者に対し思いやりを持つよう指導することができている。

### 次年度への改善点

平和学習や命の教育だけでなく、より多様な人権課題について知る機会を設ける。



# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (15) 国際理解教育

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
【民族クラブカンパニー】 在日韓国・朝鮮人の生徒同士がお互いの背景を知り、理解を深める。また、日本人生徒との相互理解を深め、お互いの文化や歴史を知り、違いを認め尊重し合える関係をつくる。		B	B
【歴史問題や現在の問題を学習し平和への意識を高める】 色々な国と日本との関係を、歴史経過を学習し、平和な世界に自分がどのように貢献できるかを考えさせる。		A	
結果と分析			
① カンパニーの活動回数が少なく、十分な活動内容であったとは言い難い。しかし、1年生数名は、文化発表会（展示の部）で、オルゴールと人形を作り、展示発表ができた。			
② 全学年、文化発表会（舞台の部）で、平和を考える機会をもった。 1年・・・ロシアとウクライナの戦争を受け、モザイクアートで平和を表現した。 2年・・・「カラフル」という題材で、一人ひとりかけがえのない存在、みんなそれぞれ違っていい、という観点から平和について考えた。 3年・・・世界で活躍した杉原千畝の半生を劇で表現し、過去を振り返り平和について考えた。			
次年度への改善点			
普段の活動の中でも、いろいろな場面、形で取り組めたらと思う。			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (16) 図書館教育

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【読書意欲の向上】 毎日開館することで、図書館利用の機会を増やす。本の魅力を伝える機会を増やし、読書意欲を喚起する。	B	B	
② 【広報活動の活性化】 本の紹介や、図書の展示物の作成など図書委員の活躍の場を作る。 さまざまな場面で図書室の利用を呼びかけ、本を目にする機会を増やす。	B		
③ 【書籍の充実】 魅力的な本、調べ学習に役立ちそうな本を優先的に購入するようにする。	B		
④ 【読書環境の整備】 生徒が気軽に利用しやすい環境を作る。	B		
結果と分析			
① 元気アップのサポートのおかげで、毎日の放課後や水曜日の昼休み、月・火・木・金曜の朝（８：１０～８：２５）の開館ができた。また、「読書の木」や図書委員による本紹介を通して、本を読もうとする意欲を喚起している。読書カードを簡易化し、取り組みやすくすることで自分自身の読書量と向き合う機会を作った。			
② 図書委員による本紹介のポスターを作成した。また、図書だよりも発行した。１年生には「オリエンテーション」で分類記号や請求番号の学習も行った。３学期からは元気アップや補助員さんと協力してお話し会やランチタイム放送を実施することができた。			
③ 意識して、教科に関する本を購入している。生徒が好きそうな本の新着図書コーナーを作成した。			
④ 本年度から「スクールプロ」という図書館システムの切り替えを行い、本の貸し出しなどをスムーズにできるようにした。図書室の利用者は宿題をするという目的が多いため、読書をするという目的でも利用してもらえるよう、読書環境を充実させていく。			
次年度への改善点			
今年度の年間５０冊達成者は７人でした。来年度はより多くの生徒が年間５０冊を達成できるよう、ランチタイム放送を中心に、読書を薦める活動を活発に行う。			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (17) 視聴覚教育

**目標** 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【文化的取り組みの充実】 芸術鑑賞を企画し、滞りなく実行する。	A	B	
② 【掲示教育の充実】 掲示板に生徒の目をむかせるような様々な工夫をする。	B		
③ 【視聴覚機器の整備】 機器の場所や数などを把握し、いつでも誰でも使いやすいようにする。	C		
結果と分析			
①12月2日実施。感染対策として時間を短く2部公演にいただいた。生徒たちも集中して鑑賞することができた。			
②学校のルールや図書室の利用状況などが美術部の協力でわかりやすく、注目される掲示物になっている。また、各委員会により学校生活に関するポスターが作成されており、様々な所に掲示されている。			
③ 視聴覚機器が返却されていないことなどがあった。管理簿を用いてだれが使用しているのかわかるように努めたい。また、破損不都合が出ても報告がなく放置されていることがあり、管理に困る。			
次年度への改善点			
① ② ③を改善、継続し取り組んでいく。			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (18) 生活指導

**目標** 規律ある生活態度を身につけさせ、常に他者を意識させる。

評価基準      A：目標を上回って達成した                      B：目標どおりに達成した  
                    C：取り組んだが、目標を達成できなかった      D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【基本的生活習慣の確立】 「時間を守る」「あいさつ・返事をする」「正しい言葉づかいをする」「正しい頭髪服装」といった学校における基本的生活習慣の確立に重点をおいて指導する。	B	B
② 【規範意識の育成】 風紀点検や日々の登校指導などの生徒指導だけでなく、教科指導や道徳教育、特別活動などすべての教育活動のなかで規範意識を育んでいく。日々の日常を大切にさせる。	B	
③ 【生活指導上の課題への対応】 ・毅然とした姿勢で、できるまで繰り返し指導していく。学校としての生活指導の枠組みを理解させ、課題を明確にし、保護者の理解も得ながら丁寧に指導していく。 ・発達段階に応じた指導として、教師主導の他律的な指導から、生徒会や生徒委員会を使った自律性を養う指導へと移行していく。横の繋がりを大切にさせる。 ・「いじめ」の早期発見について、アンケートなどを行い、積極的に取り組んでいく。	B	
④ 【安全教育】 地震・津波・火災などへの知識を理解させる。また、自転車の乗り方などの交通安全教育も行う。	B	
⑤ 【家庭・地域との連携】 地域巡視や学校行事等を通して連携を図る。主曜授業を活用した合同防災訓練の実施をする。また、ホームページなどを使い、学校の情報や取り組みを発信する。	B	

### 結果と分析

- ①②ともに概ね定着している。生徒アンケートでは、「登校時、正門であいさつをしている」で92%の肯定的回答（よくあてはまる・あてはまる）が得られており、「学校のルールは守るようにしている」では94%の肯定的回答を得ることができた。基本的生活習慣や規範意識を今後も向上させていきたい。
- ③さまざまな事案に対して、粘り強く指導してきた。また、生徒会や生徒委員会の生徒を中心に多くの生徒が活躍できる場をつくっており、個々の生徒への丁寧な指導を心がけてきた。また、アンケート等を通じて、いじめの早期発見と対応に努めた。
- ④12月に火災想定避難訓練を実施した。3月には地震・津波想定避難訓練を実施予定である。
- ⑤可能な範囲で地域との連携を図ってきた。ホームページや保護者メール等で情報発信してきた。

### 次年度への改善点

教職員の情報共有をより密にし、今後も指導を継続していく。

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (19) 健康管理

**目標** 自らの健康に配慮できる生徒の育成を行う。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【健康の生活習慣】 基本的な生活習慣を身につけさせる。保健だよりを年11回発行し、啓発を図る。1年生に「歯と口の健康づくり」について指導する。	A	B	
② 【食育】 身体は食事で作られることを理解させる。年11回食育通信を発行し、啓発に努める。	B		
③ 【現代的課題】 熱中症予防・感染症予防・薬物等について理解させる。保健だよりや校内放送などを通して具体的な方法を指導し、2年生向けに薬物乱用防止教育を実施する。	B		
④ 【環境整備】 保健委員会活動を中心にし、美化・環境整備の啓発活動を行っていく。	A		
⑤ 【家庭・地域との連携】 学校保健への関心を高める。学校保健委員会を年度末に実施し、家庭・地域と交流を進めていく。	B		
結果と分析			
① 計画どおり「保健だより」を月1回発行し、時世にそった記事を書き健康に関する意識を高めさせた。1年生対象の「歯と口の健康教室」を実施に向けて進めてきたが、感染予防の観点と3月の授業数の確保のため中止した。			
② 「食育つうしん」を月1回発行し、生徒配布時には教職員に「指導例」を配布し、啓発活動を推進した。また、「保健だより」にも食育に関する記事を掲載し、食の大切さを考えさせた。			
③ 今年度は感染予防対策をし、2年生を対象に学校薬剤師と養護教諭と2年生保健委員が連携を取り、11/9(金)「薬物乱用防止教室」を実施した。			
④ 目標を定め、学級や学校全体への啓発を行った。			
⑤ 「学校保健委員会」を年度末に実施する予定だったが、インフルエンザ等の感染予防のため中止とした。冊子にまとめ誌上研修とし地域と交流を深めていく。			
次年度への改善点			
感染症の予防対策をとりながら、学校保健に関する価値観を高めるように、全職員が共通理解をもって指導にあたるように進めていく。			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (20) 研修

**目標** 各教科・領域にわたり幅広く研修を実践し、教師力・組織力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【研修計画】各部領域と連携し、授業研究をはじめ、学校現場の身近な問題に対する研修会を計画・実施していく。	A	B	
② 【授業研究】第3教育ブロック研究会やOJTによる研修と連携した授業研究・研究協議を実施し、個々の授業力を高める。	B		
③ 【各種研修】各種の研究会・研修会の内容の啓発に努め、共通理解を深める。「天下茶屋プロジェクト」と連携し、若手育成のための研修を年3回実施する。	B		
結果と分析			
<p>① コロナによる1人1台端末の使用機会が増えたため、それに伴いICT研修を行った。また、授業参観ウィークを設け、授業力向上の取り組みとして1人1回の研究授業を実施することができた。</p> <p>② コロナ関係で実施されない研修が多かったが、オンラインによる研修には多くの職員が参加し、研鑽を深めることができた。健康教育部の救急救命講習、生活指導部の研修と、各部と連携して研修を実施することができた。また、OJT研修と位置づいている新任研修を年間通して実施することができた。</p> <p>③ 「天下茶屋プロジェクト」と連携した研修は、今年度3回実施することができた。来年度も各部各領域と連携して研修を行っていきたい。</p>			
次年度への改善点			
今後もいろいろな研修が実施できるように部各領域と連携して計画していきたい。			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (21) 天下茶屋プロジェクト

**目標** 学校の活性化に向け、教職員及び生徒会による組織的な取組みを展開する。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【生徒の実態把握と教育実践】年2回の生徒アンケートを実施し、学校生活に対する生徒の意識、生徒に必要な教育内容を把握して、教育実践につなげる。その後の教育実践の結果として「学校生活が楽しい」と答える生徒を74%以上とする。	B	B	
② 【教職員のスキルアップ】外部の研修等に参加するなど、外部の情報を積極的に取り入れて研修内容の充実を図る。また、先輩教員から若手教員へ「教師力向上」のための「知識や技能」「知恵」を伝えていく職場の気風を醸成させ、教科指導、生活指導における教職員のスキルアップを図る。	B		
③ 【外部機関との連携】大阪市教育局や大学などによる外部機関の支援のもと、校内研修の充実を図り、校内研修に対する教職員満足度を80%以上とする。また、PJの取組みを、教育関係者や地域などに積極的に発信する。	B		
④ 【生徒会活動の活性化】特別活動における生徒会活性化との連携を強化し、生徒会本部の強化を図る。生徒会主催の「校内自主清掃活動」などのボランティア活動を実施し、自己肯定感の向上を全校生徒に広げる取組を進める。	B		
結果と分析			
① 3学期に実施した生徒アンケート「学校生活は楽しい」の項目では、肯定的な回答が78%で目標を達成できた。			
② 「生活指導」などのPJの校内研修で教職員のスキルアップを図ることができている。			
③ 大阪市教育局のスクールアドバイザーと連携して若手教員を中心に授業力アップを図ることができた。			
④ 生徒会主催の「校内自主清掃活動」は実施できていないが、「赤い羽根募金運動」や「児童見学交流会」を実施することができた。			
次年度への改善点			
① 生徒アンケートの結果から成果検証を行い、今後の指導につなげていく。			
② 校内研修の内容をさらに充実させて、教育実践に活かしていく。			

# 教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

## (22) ICT

**目標** ICT 機器を活用し、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①【学習意欲の向上を図る】 ICT 機器を積極的に活用し、学習意欲の向上を図る。	B	B
②【個別学習】 「個別に最適化された学び」を実現するためにデジタルドリルを活用していく。月に1回を目標にする。	B	
③【情報活用能力】 子どもたちが必要な情報や情報手段を選択し活用できる「情報活用能力」の育成を図る。	B	
結果と分析		
①ICT 機器の活用に積極的に取り組み、わかりやすい授業を心がけている。また、一人一台端末で調べ学習や Microsoft Forms を活用し、学習意欲の向上を図った。		
②教科によって汎用性は異なるが、生徒の学び直し、学力の向上のために活用できた。		
③調べ学習では、様々な資料を吟味し活用することができていた。また、引用の仕方なども適切にできていた。		
次年度への改善点		
一人一台端末の使用の幅を広げたい。		



## 教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の時間配当

### (1) 時間配当

	教 科	1 年	2 年	3 年
必修教科	国 語	4	4	3
	社 会	3	3	4
	数 学	4	3	4
	理 科	3	4	4
	音 楽	1. 5	1	1
	美 術	1. 5	1	1
	保健体育	3	3	3
	技術家庭	2	2	2
	外 国 語	4	4	4
道 徳		1	1	1
特別活動		1	1	1
総合的な学習の時間		1	2	1
合 計		2 9	2 9	2 9

(2) 日課表、週時間表 ※○は必修教科

時 程		月	火	水	木	金
8:25 予鈴						
8:30	短学活 (集会) 職朝		(全校)	(3年)	(2年)	(1年)
8:50						
	第1限	○	道徳	○	○	○
9:40	(休憩)					
9:50						
	第2限	○	○	○	○	○
10:40	(休憩)					
10:50						
	第3限	○	○	○	○	○
11:40	(休憩)					
11:50						
	第4限	○	○	○	○	○
12:40						
13:20 予鈴	昼食 休憩					
13:25						
	第5限	○	○	○	○	総合
14:15	(休憩)					
14:25						
	第6限	○	○	○ 2年総合 ○	特活	(補)
15:20	清掃					
15:35						
15:50	終学活					
16:00						
17:00	部活動 下校					

# 令和4年度 校務分掌

【教務部】部長（教務主任）－濱中      副部長－恩田      進路指導主事－坂田

教 務 (濱中)	行事の予定・調整（月間・年間行事予定表）、日課表	濱中		
	儀式に関する事項（入学式・卒業式等）			
	運営委員会・教育課程委員会などの運営			
	新入生受け入れに関する事項 （小中連絡会・小学校保護者への入学説明会） （新入生受け入れ書類〔就学通知書・指導要録抄本・就学予定者名簿〕の整理）			
	学校現況調査			
	生徒の進級・卒業に関する事項	学年主任		
	学級編成、教室配当			
	通知表・成績原簿・生徒氏名印など	濱中		
	学習カリキュラムの編成・定期テストの実施計画			
	教育指導計画に関する事項（資料作成、製本）			
庶 務 (濱中)		1 年	2 年	3 年
	出席簿の整理点検と保管、授業時数調査、指導要録・抄本の整理・点検	田野	坪内	恩田
	転出入に関する事務	坂田	津田	濱中
	テスト問題の保管、成績一覧表等の管理・保管、成績処理に関する業務	坂田	津田	恩田
	教務諸用品の準備と整理（出席簿・教務必携など）	全員		
	補欠授業の割当てに関する事項	全員		
	生徒名列表に関する事項	恩田		
	行事予定表掲示（職員室）	西村		
時 間 割 (濱中)	授業時間割編成	濱中 津田		
	チャイムの操作	津田		
	授業参観時間割の編成	濱中		
教 材 (西村)	教科書・指導書に関する事項	西村		
	副読本・参考書・問題集その他の教材の採択事務			
研修・研究 (坂田)	教育実習に関する事項	坂田		
	講習会・研修会・視察等の教職員研修に関する事項 （校外研修のとりまとめ・案内）	坂田		
	統計教育・教育統計に関する事項			
	校内研修の企画・立案			
進路指導 (坂田)	企画立案	坂田 水野 恩田		
	前年度資料の整理・保管			
	進学・就職の資料作成			
	進路指導用テストに関する事項			
	進路指導に関する事項の研究と推進			

	職場訪問（アフターケア）	
総合学習 （濱中）	職場体験の企画・立案	津田 坪内 和田
	総合学習の記録	濱中
	各種鑑賞・行事の企画 芸術鑑賞について	田野 和田
	揭示教育	津田 水野
学校図書館 （和田）	企画・運営	図書委員会の先生 田野 和田
	図書の選択・整理	
	図書委員会の指導 図書の貸し出し	
	図書館施設・備品の管理 図書館便りの計画・発行	
キャリア P （濱中）	プリントを検討・計画	水野 津田 恩田

【 健康教育部 】 部長－東

副部長－石田

保健主事－吉田

美 化 （東）	清掃用具の配当	東・白河・大西・長島・平野・アン坂本
	清掃区域の分担割当て 清掃指導	東・白河・大西・長島・平野・アン坂本
	清掃点検	東・大西・長島・石田・平野
	机椅子等の調査管理	東・白河・アン坂本
	カーテン・ストーブ・加湿器の配給回収 及び備品回収	全員
保 健 （吉田）	保健室の整備 保全	吉田
	健康診断・結核診断の企画と実施	吉田・田邊・東・石田
	予防接種 検尿など保健衛生に関する事項	吉田・田邊・東・石田
	救急措置	吉田・東・白河
	保健衛生に関する調査と資料の整理保管	吉田
	便所 水飲み場などの衛生管理	吉田・東
	日本スポーツ振興センターの事務	吉田
	学校保健法による医療に関する事務	吉田
	地域関係機関との連絡	吉田・東・平野
	保健関係文書帳簿の整理保管	吉田・東
	保健委員会の指導	東・吉田・大西・長島・石田・平野
給 食 （東）	給食担当	東・吉田・大西・長島・アン坂本

【 生活指導部 】 部長－岡崎 副部長－西山 生徒指導主事－竹原

《生活指導係》

企 画 (竹原)	生徒指導に関する研究および研究会の運営	竹原 岡崎
	関係諸機関との連絡調整	竹原
	家庭訪問の計画と推進	竹原
	生徒連絡カードの整備・生徒写真	岡崎 角田 生駒
	小中連絡会	岡崎 竹原
	学級日誌に関する事項	竹原
	公文書の整理と保管	竹原
生活指導 (竹原・岡崎)	教育相談 生徒相談	竹原 岡崎 全員
	企画 運営 調査 研究 相談活動	竹原 岡崎
	登下校指導	全員
	生徒指導についての連絡および記録の保管	竹原 岡崎 柳川 田川
	生徒実態調査 長期欠席生徒調査	竹原
	生徒手帳	岡崎
	生徒写真	岡崎
	遺失物	大本
部 活 動 (岡崎)	部活動の編成と運営	岡崎 大本 柳川
	部活動の予算	岡崎 大本 柳川
生 徒 会 (田川)	生徒委員会の指導	全員
	生徒集会	全員
	生徒会指導	田川 大本 角田 岡崎 成田

《安全教育係》

安全教育 (西山)	災害救助隊の編成	竹原 岡崎 西山
	避難訓練	西山 生駒 柳川 竹原 岡崎
	安全指導 (交通など)	西山 生駒 柳川 竹原 岡崎

【 道徳教育推進委員会 】委員長（道徳教育推進教師）－石田

副委員長－大本

道徳教育	道徳教育の企画・立案	石田 大本
	「道徳の時間」の企画・立案	石田 大本 田野
	学年教材管理	石田 東 竹原

【 国際理解教育委員会 】委員長（外国人教育主担者）－田邊

副委員長－坂田

国際理解 教育	国際理解教育の企画・立案	田邊 坂田
	外国人教育（在日外国人生徒の把握・連携等）	水野 平野 長島
	カンパニー	田邊 坂田 和田
	小中連絡会	恩田

【 人権教育委員会 】委員長（同和教育主担者）－田川

副委員長－柳川

人権教育	人権教育の企画・立案	田川 岡崎 角田
	人権教育実践交流会	田川 柳川
	平和登校日	全員
	性教育（命の教育）	各学年

【 ICT 教育推進委員会 】委員長－生駒

副委員長－津田

ICT 教育	視聴覚教育の計画・研修	生駒 坪内 大西
	一人一台端末の管理	全員
	視聴覚機器（ビデオカメラ・デジタルカメラ・プロジェクター・マイク・DVD ドライブ）の管理	津田 白河

【 事務室 】 高橋

一般	庶務	学割の発行	高橋
	文書	文書の収受・発送・保管	高橋
会計	公金会計	学校維持運営費に関する事務	高橋
		就学援助費	高橋
	公金外会計	徴収金会計収入責任者	高橋
		徴収金会計支出責任者	高橋
		徴収金会計出納責任者	高橋
	物品会計	備品・消耗品に関する事務	高橋
	人事	転退入教職員手続き事務	高橋
	給与	府費給与	高橋
		市費給与	高橋
		旅費	高橋
	福利	共済組合認定事務	高橋

【 管理作業員室 】 徳永

営繕	徳永
清掃	徳永
園芸	徳永
給湯	徳永

## 校務分掌・委員会組織

		1 年	2 年	3 年	
校務分掌	教 務 部	田野 坂田 水野	坪内 津田 和田	恩田 浜中 西村	
	生活指導部	竹原 角田 柳川	西山 岡崎 大本	田川 生駒 成田	
	健康教育部	田邊 大西 白河	東 長島	アン坂本 石田 平野	吉田
四委員会	道德教育 推進委員会	田野 竹原	東 大本	アン坂本 石田 西村	
	国際理解 教育委員会	田邊 坂田 水野	長島 和田	恩田 平野	
	人権教育委員会	角田 柳川	岡崎 西山	田川 浜中	
	ICT 教育 推進委員	白河 大西	津田 坪内	生駒 成田	
主 任 会		田野 竹原	西山 東 岡崎	恩田 浜中	校長 教頭 首席
		修学旅行委員会・予算委員会・施設整備委員会を兼ねる			事務代 表
運営委員会		田野 竹原	西山 東 岡崎	恩田 浜中	校長 教頭 首席 吉田 事務代表
特別 委員会 1	文化発表会 実行委員会	田野 白河 坂田 竹原	東 津田 坪内 和田	アン坂本 石田 平野 恩田	
	体育大会 実行委員会	柳川 大西 角田 水野 田邊	岡崎 大本 長島 西山	田川 生駒 成田 浜中 西村	
特別 委員会 2	特別支援教育 委員会	田野 角田 白河 田邊	西山 大本 津田 坪内 長島	田川 石田 生駒 浜中 成田	
	いじめ防止対策 委員会	田野	西山 東	恩田 浜中	校長 教頭 吉田 SC SSW



	<b>食物アレルギー 等 対応検討委員会</b>	田野 角田 白河	西山 大本 津田	田川 石田 生駒	校長 教頭 吉田 敬 医 主 治 医
	<b>進路指導委員会</b>	田野	西山	3 年所属全 員	校長 教頭
	<b>教育課程委員会</b>	田野	西山 東	恩田 浜中	校長 教頭 首席

※「校務分掌」・「四委員会」・「特別委員会 1」については、いずれかに全員所属する